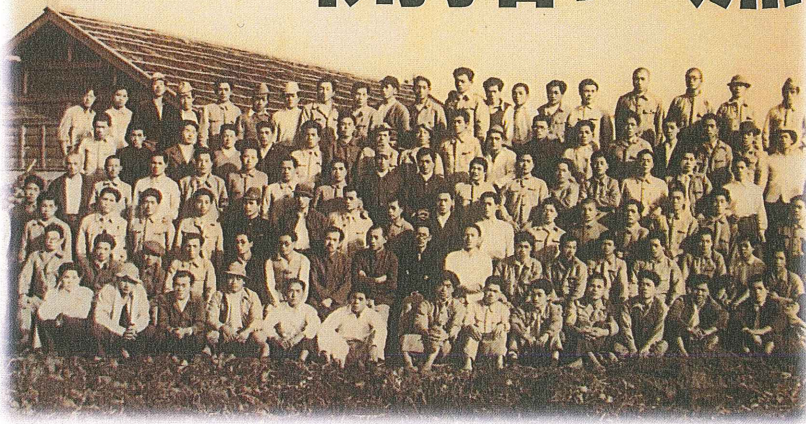


# 若者たち

# 開拓に燃える



## ふれあいセンター 歴史民俗資料室

昭和 20 年 8 月 15 日の太平洋戦争終結の日まで旧日本陸軍の演習場であった千葉県の下志津原は荒涼たる原野でありました。

この演習場を開墾して「食糧を生産し、日本を復興しよう」と満州開拓の父といわれた茨城県内原の満蒙開拓青少年義勇訓練所長の加藤完治先生に開拓について教えを乞いながら、当時 15～17 歳の青年たちが開墾のクワを取ったのです。

ふれあいセンター歴史民俗資料室では、当時実際に使われた生活用品や生産道具をはじめ、写真や年表等で当時の様子を伝えていくと共に、広く一般の人々にご覧いただくことを目的としております。



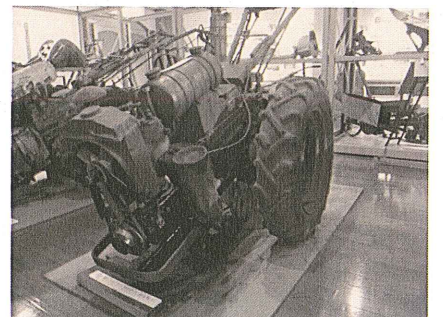
資料室内



地産小麦を使った製パン作業



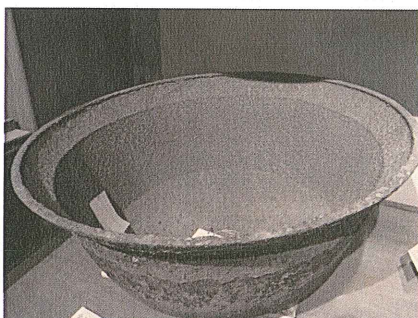
トラクターでの開墾作業



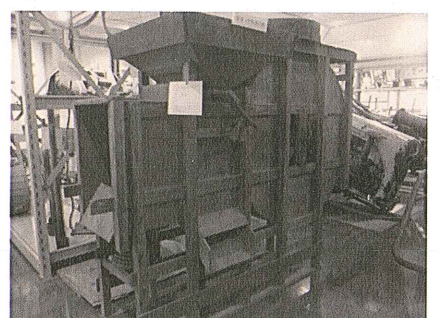
当時使用されたドイツ製ハンドトラクター



甘藷の苗作り



共同炊飯で使用された大窯



作物選別機